

2024年度

事業計画書

2024年3月

学校法人 松山東雲学園

目次

1. 法人計画の概要

(1) 設置する学校等	1
(2) 入学者数等の計画	1
(3) 教職員数等の計画	1
(4) 役員・評議員数等	2

2. 事業計画の概要

(1) 主な事業	2
(2) 大学・短期大学	3
(3) 高等学校・中学校	7
(4) 認定こども園	9

3. 2024年度予算編成方針及び予算の概要

(1) 2024年度予算編成方針	10
(2) 2024年度予算の概要	11
資金収支計算書	13
事業活動収支計算書	14
事業活動収支の構成比率	16

1. 法人計画の概要

(1) 設置する学校等

- ① 松山東雲女子大学[開学年月:1992(平成4)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学 長 高橋 圭三
学部等 人文科学部 心理子ども学科
[子ども専攻、社会福祉専攻(心理福祉専攻より名称変更)、地域イノベーション専攻(新設)]
- ② 松山東雲短期大学[開学年月:1964(昭和39)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
学 長 高橋 圭三
学 科 保育科 現代ビジネス学科 食物栄養学科
- ③ 松山東雲高等学校[開校年月:1948(昭和23)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校 長 染田 祥孝
課程等 全日制課程 普通科
- ④ 松山東雲中学校[開校年月:1947(昭和22)年4月]
所在地 愛媛県松山市大街道3-2-24
校 長 染田 祥孝
- ⑤ 松山しなのめ認定こども園[開園年月:2024(令和6)年4月]
所在地 愛媛県松山市桑原3-2-1
園 長 田中 洋子

(2) 入学者数等の計画 ※2024.1.29 現在

2024年度入学予定者数・在籍予定者数

(単位:名)

部門	収容定員	在籍予定者数	入学(募集)定員	入学予定者数
大 学	460	271	110	54
短期大学	500	382	250	178
高等学校	420	321	90	90
中 学 校	150	108	50	37
認定こども園	175	168	-	-
計	1,705	1250	500	359

(3) 教職員数等の計画

① 専任教職員

- ア. 大 学:22名(学長1名、教授8名、准教授7名、講師6名)
- イ. 短期大学:22名(教授9名、准教授10名、講師1名、助教2名)
- ウ. 高校中学:34名(校長1名、教頭2名、教諭31名)
- エ. 認定こども園:20名(園長1名、主幹教諭2名、保育教諭15名、栄養士2名)
- オ. 事務職員:45名(大学・短期大学40名、高校・中学3名、認定こども園2名)

② 非常勤教職員

- 前年度実績等を勘案して設定
- 児童クラブ職員若干名

(4) 役員・評議員数等

- ① 理事長:丸木 公介
- ② 理事数:11名(理事長及び外部理事 3名含む)
- ③ 監事数:2名
- ④ 評議員数:25名

2. 事業計画の概要

(1) 主な事業

① 特別予算事業

【法人】

- ア. 減価償却引当特定資産・施設拡充引当特定資産への繰入れ
- イ. 有価証券の購入
- ウ. 企業主導型保育事業整備費補助金返還
- エ. 火災保険料(3年に1回)

【大学・短期大学】

- ア. 学生募集 Web プロモーション
- イ. 学生の諸活動におけるポイント制度の導入
- ウ. クローバー広場等外灯修繕工事
- エ. 本館北玄関・渡り廊下・屋上防水工事
- オ. 幼稚園教諭免許状・保育士資格取得のための特例講座の開講
- カ. 災害対策用の備蓄品の購入
- キ. 施設職員控室及び倉庫の建替え工事

【高等学校・中学校】

- ア. 樹木伐採工事
- イ. バレーボール部指導員等謝礼

【認定こども園】

- ア. 年少以上児のための防災ずきんの設置
- イ. 給食の開始
- ウ. 木のおうち購入
- エ. 児童クラブの運営に係る費用

(2) 大学・短期大学

大学・短期大学では、①教務、②学生支援、③キャリア支援、④図書・学術情報、⑤情報化、⑥入試、及び⑦地域連携・社会貢献推進室について示します。

①教務

ア. 2024年度 星槎大学との連携に向けた準備(大学)

星槎大学との教育連携が順調にできるよう履修学生へのサポート、必要業務を行います。

イ. 成績評価基準の平準化

現在、履修要覧により成績評価の評価基準について定めていますが、更なる成績評価基準の平準化や授業難易度の改善を目的として、成績評価の分布基準について引き続き検討していきます。

②学生支援

学生生活を快適かつ安全に送ることができるよう支援します。具体的には、それぞれの学生が抱える心身の問題を保健室やカウンセリングルームとの連携のもとサポートします。また、学生会活動やクラブ活動、ボランティア活動などの更なる活性化を図ります。自転車・バイクの交通安全指導やバス通学生の車内マナーの向上についても引き続き努めます。

障がいのある学生の修学支援については、合理的配慮が円滑に実施されるよう努めます。

国際交流については、危機管理を意識した日本人学生の海外留学派遣(留学・語学文化研修)および協定校との教育文化交流(受入)を実施します。

③キャリア支援

ア. 就職支援ガイダンス

就職活動が早期化する傾向の中で、各学科・専攻の就職活動に適した日程・内容で実施し、随時就職情報を提供していきます。大学生は3年次の4月、短期大学生は1年次の4月のオリエンテーションからスタートし、自己分析、目標設定、業界・職種研究、履歴書・自己PRの書き方、OGガイダンス、ビジネスマナー講座などを実施し指導します。

イ. キャリアプログラム

できるだけ早い時期に職業観・就職観を確立させるとともに自分を知り、自分を見つめ、自分を高めるためのプログラムです。

公務員を目指す学生には、「公務員受験対策講座」「公務員就職対策模擬試験」「グループディスカッション対策講座」などを順次実施します。

一般企業を目指す学生には、「業界・しごと研究」「合同企業説明会のまわり方」「筆記試験対策講座」などを実施します。また、短期大学食物栄養学科の学生が主な対象者にはなりますが、「基礎力強化講座(使える!基礎計算のマストレッスン)」を実施するなど、きめ細かく個別サポートします。

また、「編入学ガイダンス」「大学院ガイダンス」では、キャリアアップや専門的知識・考え方を深めたい学生のために、他大学から教員と進学した先輩を招き、大学の選び方から受験の仕方まで詳しく説明します。

さらに、管理栄養士を目指す学生のために管理栄養士養成課程のある大学からも担当者を招いてガイダンスを実施します。

ウ. インターンシップ

インターンシップを「在学中に自らの専門的な学びを基に、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」として捉え、就業体験を通じて専門知識の深化と職業適性の自覚を目的に「大学コンソーシアムえひめインターンシップ部会」が主催するインターンシップ・プログラムを活用しながら実施します。また、短期大学の現代ビジネス学科では春季休暇中に「春季インターンシップ研修」を実施します。

エ. 「しののめプラス」(社会人講座)

「しののめプラス」(社会人講座)は、本学の教育機能を広く地域社会に開放した生涯学習のための講座です。また、本学の在学学生、卒業生の「東雲力」を育成するために「学び直し」「学び直し」を支援する講座でもあります。講座の内容としては、資格取得支援、語学、暮らしと創造、子育て支援、ビジネススキルなど多岐にわたっています。

※『東雲力』とは、「自ら考える力」「挑む力」「つながる力」「やり遂げる力」の4つの力とそれぞれを形成する具体的な13の力から構成されています。

オ. 卒業後のサポート「しののめ人財バンク」

卒業後も、それぞれの道でキャリアアップを続けている卒業生のために、すべての教職員が積極的なサポートを継続します。本学の知的・人的資源を活かして本学および地域社会のさまざまな活動に寄与することを目的として2017年に設置された「しののめ人財バンク」では、①就職希望がある卒業生への求人案内、②社会人入試・「しののめプラス」(社会人講座)の案内、③本学で開催される各種イベントの案内を実施し卒業生を支援しています。

④図書・学術情報

図書館では、学生の学修を支援するため以下のような取り組みを実施し、学生のための図書館を目指しています。

ア. 図書館の学修支援と利用促進

a ガイダンスの実施

- (a) 新入生図書館オリエンテーション 4月～6月
- (b) 文献検索ガイダンス 依頼により適宜

b 企画展示

- (a) 「学生生活応援図書」
- (b) 「レポート・論文の書き方関連図書」
- (c) 「前年度貸出・閲覧ランキング上位の本」
- (d) 「文学賞・話題賞を受賞した本」
- (e) 「クリスマス関連図書」
- (f) 「人間力UPの本」
- (g) 「ブックハンティングに行ってきました」
- (h) 「映画化された本を集めてみました～DVDとともに～」
- (i) 「季節のおすすめ絵本」(松山しののめ認定こども園とのコラボ企画:年5回)

*展示図書リストを図書館ホームページにて紹介

- c 図書館内で利用可能なノートパソコンの貸出
- d ラーニングコモンズ利用予約情報の提供
- e 購入希望図書の所蔵紹介
- f スタンプカードの実施
- g 図書・雑誌等の計画的な処分および配架スペースの環境整備
- h 国立国会図書館デジタルコレクション図書館向けデジタル化資料送信サービスの周知・実施

イ. 学生のためになる選書の実施

- a 継続購入図書を見直し、購入希望図書を中心に主体的な選書を実施
- b シラバスに紹介されている参考図書を積極的に購入し、学修をサポート
- c ブックハンティングによる購入希望図書の選書推進
- d 各学科・専攻において購読している学生用図書および学術雑誌の見直し

ウ. 紀要・研究論集の公開

JAIRO Cloud への加入承認が 2023 年末になったことから、従来の機関リポジトリで公開していたコンテンツが移行できていない状況です。このため、2024 年度は従来公開していた全てのコンテンツを JAIRO Cloud からアクセスできるように、コンテンツの登録作業を順次行います。

⑤情報化

情報メディアセンターでは、学内の情報システムに関連した様々な業務を取り扱っています。情報システムについては年次計画を策定し計画的に更新を行うことで、学生・教職員の利便性の向上、セキュリティの維持に努めています。特に、さまざまなクラウドサービスの利用が求められるようになってきていることから、認証基盤の強化を中心に検討を開始します。

ア. 情報教室

- a 授業に支障がないよう設備の維持管理の実施
- b BYOD に向けた教室環境の整備計画

イ. ネットワーク・サーバ環境

- a OS のサポート期限が近付いているサーバの更新
- b 学内の Wi-Fi 環境の調査および改善の実施
- c 学認および eduroam 環境の整備
- d サーバ証明書の定期的な更新

ウ. 業務システム

- a 事務用 PC の計画的な更新

エ. 情報セキュリティ

- a サイバー攻撃に対する防御力の強化
- b 情報セキュリティに関する研修会の実施
- c 学内ネットワークに接続する全ての端末調査の実施

オ. Web サイト

- a Wordpress サイトの継続的なセキュリティアップデート対応

⑥入試

ア. 学生募集

大学・短期大学ともに「定員確保」を必達目標とします。教職員一人ひとりが学生募集に対する意識をより高く持ち、学科・専攻の強みを見える化した募集を積極的に実行していきます。そのためには、本学を第一志望とする受験生を増やし総合型選抜、学校推薦型選抜で定員確保ができるよう、入試改革を含めた募集体制を整えることが必要です。具体的には昨年度に引き続き SNS を活用した「全体」から「個」にむけてのアプローチをさらに強化していきます。特にオープンキャンパスにおいては、リピーターを含む来学数を増やし出願率を上げるためのプログラムを企画し、本学の強みである教職員、在学生スタッフによる丁寧な個別対応をさらに充実させます。

また、高校訪問では、高校からの声を学内で共有し反映させる仕組みづくりを検討します。18 歳人口の減少も加速していることから、社会人学生募集、編入学募集もさらに強化し、学生確保に努めます。

その他、高大連携では、高等学校での「探究学習」の継続、出張講義の充実、さらに科目等履修についても広報を強化し、連携による高校生との接触を増やしていきます。

イ. 入学者選抜

ミスなく正確かつ迅速な入学者選抜を大前提とします。2022 年度入学者選抜より導入した記述式総合問題を継続して実施します。また、「情報 I」の取り扱いについては、2025 年度入試者選抜において選択科目として取り扱うことを決定しました。

⑦地域連携・社会貢献推進室

本学の建学の精神・教育目的に則り、教育・研究及びその他の活動の成果情報を学内外に発信するとともに、地域・行政、企業・団体、教育機関及び公共機関等との連携・協働を図ります。学生・教職員の専門的な知識・技能を活用しながら、地域のニーズに対応し、その発展に貢献できる大学となるため、2024 年度は以下の事業を計画しています。

ア. 社会連携推進事業

- α 桑原地区まちづくり協議会主催行事・大学行事の相互協力:2 件
- β 児童クラブの開設(桑原キャンパス内)
 - ・学童受入数:40 名

イ. 生涯学習等支援事業

- α 「しののめプラス」(社会人講座)の支援
 - ・地域、企業等からの参加者前年比10名以上
 - ・新規講座数1件以上

ウ. 交流促進事業

- α 企業、国内大学等との連携協定締結:年間 2 件以上

エ. 広報活動推進事業

- α プレスリリースの配信:年間 12 件以上
- β HP への投稿:年間 24 件以上

(3) 高等学校・中学校

2024年度の学校目標を昨年度と同様に、「心に愛と希望と勇気を ―未来のために今を生きる―」と定め、キリスト教の精神を人格形成の基礎においた女子教育を行う学校として、「徳・知・体」のバランスのとれた、未来を支える人材を育成します。以下にその実現に向けた具体的な内容を示します。

① 学校経営【学校生活の満足度向上】

卒業時に「入学してよかった」「通わせてよかった」と信頼され、評価される学校づくりを推進します。そのために、育成を目指す資質・能力や、教育課程の編成及び実施に関する方針を示して学校運営を行います。

また、女子教育を軸とする東雲ブランドを構築するため、一人一人の個性を発揮できる大会やコンテストへの積極的なチャレンジを推奨します。

ア. 数値目標設定及び学校評価、学校評議員会の提案に基づく学校経営の改善

イ. 個性豊かな体育祭、クローバーデイ、スプリングフェスティバル等の学校行事の開催

ウ. 新たに、高校2年生進学コースを対象に「英語に特化したホーム(または選択)」を設置し、「英語の東雲」にふさわしい英語教育を実践していく。

エ. 中学の「総合的な学習の時間」での茶道(1年生)、華道(2年生)、琴(3年生)の授業実践。高校の「総合的な探究の時間」での茶道・華道(1年生)授業実践、海ゴミの回収ボランティア(2年生)の課外活動の実践

オ. 中学と高校1年生の保健・体育で「なぎなた」の授業を実施

カ. 部活動ではない様々な大会やコンテストへの積極的なチャレンジを支援

② 教科指導の充実【授業力の向上】

ICT環境を整えながら、iPadやSurfaceを活用した授業や特別活動が充実してきたことを受け、「主体的・対話的で深い学び」の趣旨に沿った授業実践を行うため、教員の授業力の向上を目指します。

また、一人一人を大切にす指導を推進するために特別支援教育を拡充します。

ア. 身に付けさせたい力及びその方法の明確化と授業充実

イ. ICT教育の展開(iPadやSurfaceを活用した分かる授業の研究、ICTを活用した焦点授業の実施)

ウ. 10月に開催される四国地区私学教育研修会を念頭に、研修授業による授業の改善とスキルアップ(全教員が研修授業を実施し、各教科を中心に、授業反省会を行う。)を図る。

エ. 生徒による授業評価の活用(年2回)することで、生徒目線での授業の感じ方、在り方について学び、改善に結び付ける。

オ. 特別支援教育の充実(特に、高校における特別支援教育の強化、愛媛県教育総合センター、愛媛大学等と連携してのケース会議の継続、特別支援教育コーディネーターの指名と組織強化、個別の指導計画の作成)

カ. 校内情報セキュリティ対策の強化と生徒のスマートフォンの使い方指導やトラブル対処法に関する研修
キ. 生徒一人1台のPC利用に対応するソフト・ハード面の準備と、新型コロナウイルスやインフルエンザによる休校に即応できるタブレットを用いたリモート授業の研究

③ 進路指導【生徒の可能性を広げる進路指導】

新科目の理解と評価を中心に、新教育課程のさらなる研究を進めるとともに、知識や技能の定着だけでなく、大学入試に必要な読解力・思考力・判断力を育成するためのプログラムを全校体制で進路保障の取組について検討・実現します。

また、中学・高校の6年間を通したキャリア教育を系統的に推進します。

ア。「総合的な探究(学習)の時間」を利用して、大学からの出張講義などを行い、自ら問題を見つけ、協働して解決までのプロセスを探究していこうとする態度を育て、経験を積ませる。また、「問うこと」に特化した探究プログラムを充実させ、スキルアップを図る。

イ。本校の特質を生かし、6年間を見通した進路指導計画、キャリア教育について改善し、実施する。中学2年生は「職場体験(インターンシップ)」、中学3年生と高校1年生は松山東雲女子大学・短期大学のキャンパスツアー、高校1・2年生は松山東雲女子大学・短期大学教員による特別授業の開催、高校2年生は本校で開催する県内大学・短大・専門学校の説明会の充実等、これまで以上に生徒や保護者のニーズを取り入れる。

また、広く高校1~3年生を対象に「高大接続プログラム」として「単位の先取り修得」講座を継続して行い、定着させていく。加えて、松山大学や愛媛大学への転学の制度についても周知していく。

ウ。読解力・発表力・表現力育成のプログラム実施(校内日本語弁論大会、マドンナレシテーションコンテスト校内選考会、クローバーデイ、スプリングフェスティバルにおけるブックトーク等を利用しての発表力の育成)

エ。英語力向上への取り組み(GTEC や英語検定対策の強化、各種スピーチコンテスト、英語キャンプへの参加)

オ。進路指導委員会の充実によるきめ細かい進路指導(総合型選抜、学校推薦型選抜の研究と活用、また、従来の指定校推薦における選考規準の見直し、各生徒のポートフォリオ作成の準備。大学共通テスト直後に生徒が志望する大学と学部・学科に必要な科目ごとの全校体制での検討会の実施)

④ 部活動等の活性化【豊かな人間性の育成】

部活動は技術や技能の向上だけでなく、生徒の心身の成長と豊かな学校生活の実現に大きな役割を果たしています。このような観点から、安全かつ効果的な指導を目指すとともに、体罰・ハラスメント等の不祥事の根絶に万全を期します。

ア。県代表、四国代表となる部活動を育成し、全国大会での入賞を目指す。

イ。生徒の希望する活動を同好会として認めるなど、自発的な活動への助言や支援を行う。

ウ。女子力向上プログラム(部に類する活動への補助事業)の強化に昨年度以上に努める。

エ。部活動における体罰・ハラスメント等の防止の徹底し、保護者に納得・安心してもらえる部活動経営と情報発信を行う。

⑤ 高大連携【大学理解の機会提供】

松山東雲女子大学・短期大学との連携を中心に、大学、短大への理解を深めさせます。さらに、これを基盤として、自らの進路開拓に対する意欲を喚起させます。

ア。松山東雲女子大学・短期大学の良さや強みを理解させることで入学希望者を確保

イ。高校1、2年生に対し、松山東雲女子大学教員及び・短期大学教員の出張講義を実施(年間15回以上の実施)

ウ。高校2年生に対して愛媛大学・松山大学・松山東雲女子大学・短期大学、専門学校の教員による説明会を引き続き本校で開催する。(11月実施)

エ。高校1年生全員の秘書検定受検と短期大学教員による対策講座の開講(12月、1月実施)

オ。松山東雲女子大学・短期大学進学希望者に対する「高大接続プログラム」として始めた「単位の先取り修得」講座を継続して行い、同大学・短大に進学する優位性について周知し、定着させていく。

⑥ 生徒数の確保【選ばれる学校】

松山東雲中学・高校の女子校としての意義及び生徒の努力や成果を知ってもらいます。そのために、効果的な情報発信に努めるとともに、広報活動を一層強化します。

- ア. 学校案内の冊子・オープンスクール等で本校の特色をアピール
- イ. 魅力あるホームページ(「校長室便り」「今日の東雲」Official Instagram 等)の充実
- ウ. 小学校・中学校・塾訪問の強化
- エ. PTA・同窓会・地域社会・地元企業と連携して「門前まつり」等の魅力ある行事への積極的参加
- オ. 高校入試の時程を県立高校と同様にし、中学入試に英語を加えたことによる効果を調査・検証し、継続した入試問題の質の向上を図る。

(4) 松山しののめ認定こども園

2024 年度より、松山東雲学園附属幼稚園と松山しののめ学園附属保育園が幼保連携型認定こども園『松山しののめ認定こども園』として一つの組織になり新たにスタートします。これまで築いてきた幼稚園と保育園の保育方針と保育内容を継承し、今後も子ども主体のよりよい保育、遊びを通して育つ子どもたちへの環境作りを考えていきます。

0 歳から 6 歳までの一貫した保育・教育の総合的な提供を行い子どもの育ちを保障し、安全で安心な生活が過ごせるようにします。保護者にとっても就労の有無や就労形態による保育時間の多様性に対応し、給食の提供もします。また、地域の社会的役割としての子育て支援の拠点となるよう機能していきます。

① 保育方針と保育内容の継承と充実

- ア. 子ども一人ひとりの気持ちに寄り添い、愛されている安心感がもてるかかわりをする。
- イ. 自分の気持ちを表し、自分で遊びを見つけ、行動できる子どもの姿を支える。
- ウ. 0 歳から 6 歳までの育ちに応じた豊かな経験ができる保育環境を整える。
- エ. 多様な利用時間に応じた一人ひとりの一日の生活リズムの保障をする。

② 保育教諭の人材確保・定着

- ア. 大学との連携を中心に、本園の保育・魅力を発信し、知ってもらう。
- イ. 学生アルバイトを受け入れ、繋げる。
- ウ. 教職員の充実により、育児と仕事の両立ができる働きやすい勤務体制をつくる。

③ 教職員の質の向上

- ア. 教職員一人ひとりのキャリアアップを支援するために定期的な個別面接を実施し、目標や課題を確認できるように努める。
- イ. コミュニケーションを図りながら、教職員一人ひとりの意欲につながるようアプローチしていく。
- ウ. 研修等を活用し、学びを高め合えるように、職員同士で話し合いや意見交換の場を設け、方向性の一致を図りながら、人材の定着へと結びつける。

④ 魅力ある園づくり

- ア. 共に支え合い、育ち合う園として日々の保育や子育て支援の情報発信
- イ. 「たんぽぽ」や大学と連携をとり地域の子育て支援の拠点となるよう機能していく。

⑤ 今後を見据えた園の在り方を探る

- ア. 社会情勢の変化や保護者のニーズの把握
- イ. 今後を見通した人事計画をたてる。

3. 2024年度予算編成方針及び予算の概要

(I) 2024年度予算編成方針

経常収支差額比率 5.0%以上【私学事業団経営判断指標A3 段階】を必達目標とする。

I. 入学者の確保

入学者が入学定員(中高は募集人員)以上になるよう努める。

- ① 大 学 : 110名+編入10名
(定員充足率80%以上となるための入学者は、156名)
- ② 短期大学 : 250名
- ③ 高 校 : 120名(外進 95名)
- ④ 中 学 : 50名
- ⑤ 認定こども園: 175名(総数)

II. 外部資金の獲得

寄付金・補助金等の外部資金を獲得する。

III. 予算申請上の留意点

- ① 予算申請にあたっては、中長期計画を視野に入れたものとする。
- ② 継続事業
申請者は、各予算項目を精査し、優先度、必要度及び費用対効果等を検証した上で申請する。
昨年度に引き続いて実施する事業計画は、その実施方法の改善や複数の業者の見積合わせ等により検討する。
新規事業は、前年度までの予算の組み替えを前提とする。
- ③ 重点事業
学内外から高く評価されることが見込まれる諸施策を企画し、各機関ともその計画を予算申請に含めてください。その可否は、予算折衝を通じて決定する。
- ④ 予算編成時において想定のできない突発的な事業
必要度及び費用対効果等を勘案し、予備費の範囲内で対応する。

IV. 2024年度末の積立率

学園の永続的な教育研究活動を実現するため、50%を必達目標とする。

【全国平均(医歯除く)78.4%】

以 上

(2) 2024年度予算の概要

①資金収支予算の概要

ア 資金収入

学生生徒等納付金収入は前年度予算に対し 1 億 2,480 万円減の 8 億 948 万円を計上しています。手数料収入は 66 万円減の 1,120 万円を計上し、寄付金収入は 158 万円減の 472 万円を計上しています。

補助金収入は 395 万円増の 4 億 6,391 万円を計上しています。付随事業・収益事業収入は 1,329 万円増の 6,175 万円を計上しています。その主な要因は 2024 年度から運営する児童クラブの利用料収入の計上によるものです。受取利息・配当金収入は 437 万円増の 2,755 万円を計上しています。雑収入は 893 万円増の 7,957 万円を計上しています。その主な要因は、定年退職者の増加に伴う退職金財団交付金の増加によるものです。前受金収入は 1,099 万円増の 1 億 7,136 万円を計上しています。その他の収入は 1 億 3,679 万円減の 1 億 3,472 万円を計上しています。その主な要因は、前年度に実施した引当特定資産の取崩収入の減少によるものです。資金収入調整勘定は 5,178 万円減の 2 億 6,763 万円を計上しています。その主な要因は、年度をまたいで納入される補助金等の減少によるものです。以上により、収入の部合計は、5 億 4,018 万円減の 29 億 9,281 万円の計上となりました。

イ 資金支出

人件費支出は前年度予算に対し 1,771 万円増の 8 億 7,700 万円を計上しています。その主な要因は、児童クラブの職員人件費及び定年退職者の増加によるものです。なお、予算編成の段階において、賞与は未計上としています。

教育研究経費支出は 2,878 万円増の 3 億 7,322 万円を計上しています。その主な要因は奨学費支出によるものです。管理経費支出は 2,372 万円増の 1 億 304 万円を計上しています。その主な要因は、企業主導型保育事業整備費補助金の返還支出によるものです。借入金等利息支出は 60 万円減の 149 万円を計上し、借入金等返済支出は前年度予算と同額の 2,844 万円を計上しています。施設関係支出は 582 万円減の 3,323 万円を計上しています。2024 年度は、施設職員控室及び倉庫の建替え工事を予定しています。設備関係支出は 5,269 万円減の 956 万円を計上しています。その主な要因は、前年度に実施した地域イノベーション専攻設備費、図書費の減少によるものです。

資産運用支出は 9,250 万円減の 4 億 9,700 万円を計上しています。その内訳は、減価償却引当特定資産への繰入が 4,700 万円、施設拡充引当特定資産への繰入が 1 億 5,000 万円、有価証券購入支出が 3 億円です。その他の支出は 306 万円減の 432 万円、予備費は前年度予算と同額、資金支出調整勘定は 57 万円減の 432 万円を計上しています。以上により、翌年度繰越支払資金は前年度予算と比べ 4 億 5,628 万円減の 10 億 1,984 万円となり、支出の部合計は、5 億 4,018 万円減の 29 億 9,281 万円の計上となりました。

②事業活動収支予算の概要

ア 事業活動収支

事業活動収入は14億4,175万円、事業活動支出16億1,692万円で基本金組入前当年度収支差額は1億7,517万円の支出超過となります。基本金組入により当年度収支差額は2億3,716万円の支出超過となり、翌年度繰越収支差額は28億9,680万円の支出超過となります。

イ 事業活動収支の区分別収支

学校法人の本業である教育活動収支は、教育活動収入14億920万円、教育活動支出15億1,853万円で、教育活動収支差額1億933万円の支出超過となります。教育活動外収支は、教育活動外収入3,255万円、教育活動外支出149万円で、教育活動外収支差額3,106万円の収入超過となります。教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合わせた経常収支差額は7,828万円の支出超過となります。また、経常収支差額比率は△5.4%となりますが、私学事業団経営判断指標は今年度はA3段階(経常収支差額が3か年のうち2か年以上黒字)となる見込みです。特別収支は、特別収入0円、特別支出4,689万円で4,689万円の支出超過となります。

なお、2024年度末の積立率は、51.7%となる見込みです。

資金収支計算書

2024年 4月 1日から
2025年 3月 31日まで

(単位:千円)

収入の部					支出の部				
科目	予算	前年度予算	増減	備考	科目	予算	前年度予算	増減	備考
2024年度学生・生徒・園児予定数で設定					児童クラブ人件費、定年退職者の増加				
学生生徒等納付金収入	809,477	934,272	△ 124,795		人件費支出	876,995	859,289	17,706	
手数料収入	11,199	11,854	△ 655		奨学費支出の増加				
寄付金収入	4,717	6,300	△ 1,583		教育研究経費支出	373,218	344,437	28,781	
補助金収入	463,907	459,953	3,954		企業主導型保育事業整備費補助金の返還支出				
資産売却収入	0	0	0		管理経費支出	103,036	79,316	23,720	
児童クラブ利用料の計上					借入金等利息支出	1,494	2,091	△ 597	
付随事業・収益事業収入	61,748	48,454	13,294		借入金等返済支出	28,440	28,440	0	
受取利息・配当金収入	27,550	23,177	4,373		施設職員控室及び倉庫の建替え工事費の計上				
雑収入	79,566	70,638	8,928		施設関係支出	33,227	39,046	△ 5,819	
前受金収入	171,359	160,367	10,992		地域イノベーション専攻設備・図書等の減少				
その他の収入	134,724	271,517	△ 136,793		設備関係支出	9,556	62,247	△ 52,691	
資金収入調整勘定	△ 267,634	△ 319,413	51,779		引当特定資産繰入支出の減少				
その他の収入	134,724	271,517	△ 136,793		資産運用支出	497,000	589,500	△ 92,500	
資金収入調整勘定	△ 267,634	△ 319,413	51,779		その他の支出	4,320	7,384	△ 3,064	
前年度繰越支払資金	1,496,192	1,865,862	△ 369,670	①	[予備費]	50,000	50,000	0	
収入の部合計	2,992,805	3,532,981	△ 540,176		資金支出調整勘定	△ 4,320	△ 4,892	572	
					前年度繰越支払資金	1,019,839	1,476,123	△ 456,284	②
					支出の部合計	2,992,805	3,532,981	△ 540,176	
					支払資金の増減額	△ 476,353	△ 389,739	△ 86,614	②-①

事業活動収支計算書

2024年 4月 1日から

2025年 3月 31日まで

(単位：千円)

		科 目	予 算	前年度予算	増減	備考
教育活動収支	事業活動収入の部	学 生 生 徒 等 納 付 金	809,477	934,272	△ 124,795	
		手 数 料	11,199	11,854	△ 655	
		寄 付 金	4,717	6,300	△ 1,583	
		経 常 費 等 補 助 金	463,907	415,111	48,796	
		付 随 事 業 収 入	56,748	43,454	13,294	
		雑 収 入	63,155	92,421	△ 29,266	
		教 育 活 動 収 入 計	1,409,203	1,503,412	△ 94,209	
				退職給与引当金戻入額の減少		
教育活動支出の部	事業活動支出の部	人 件 費	847,201	843,160	4,041	
		教 育 研 究 経 費	614,418	574,936	39,482	
		管 理 経 費	56,916	83,061	△ 26,145	
		教 育 活 動 支 出 計	1,518,535	1,501,157	17,378	
教育活動収支差額			△ 109,332	2,255	△ 111,587	①
教育活動外収支	事業活動収入の部	受 取 利 息 ・ 配 当 金	27,550	23,177	4,373	
		そ の 他 の 教 育 活 動 外 収 入	5,000	5,000	0	
		教 育 活 動 外 収 入 計	32,550	28,177	4,373	
	事業活動支出の部	借 入 金 等 利 息	1,494	2,091	△ 597	
		教 育 活 動 外 支 出 計	1,494	2,091	△ 597	
教育活動外収支差額			31,056	26,086	4,970	②
経常収支差額			△ 78,276	28,341	△ 106,617	③ (①+②)
経常収支差額比率			△ 5.4%	1.9%	△ 7.3%	

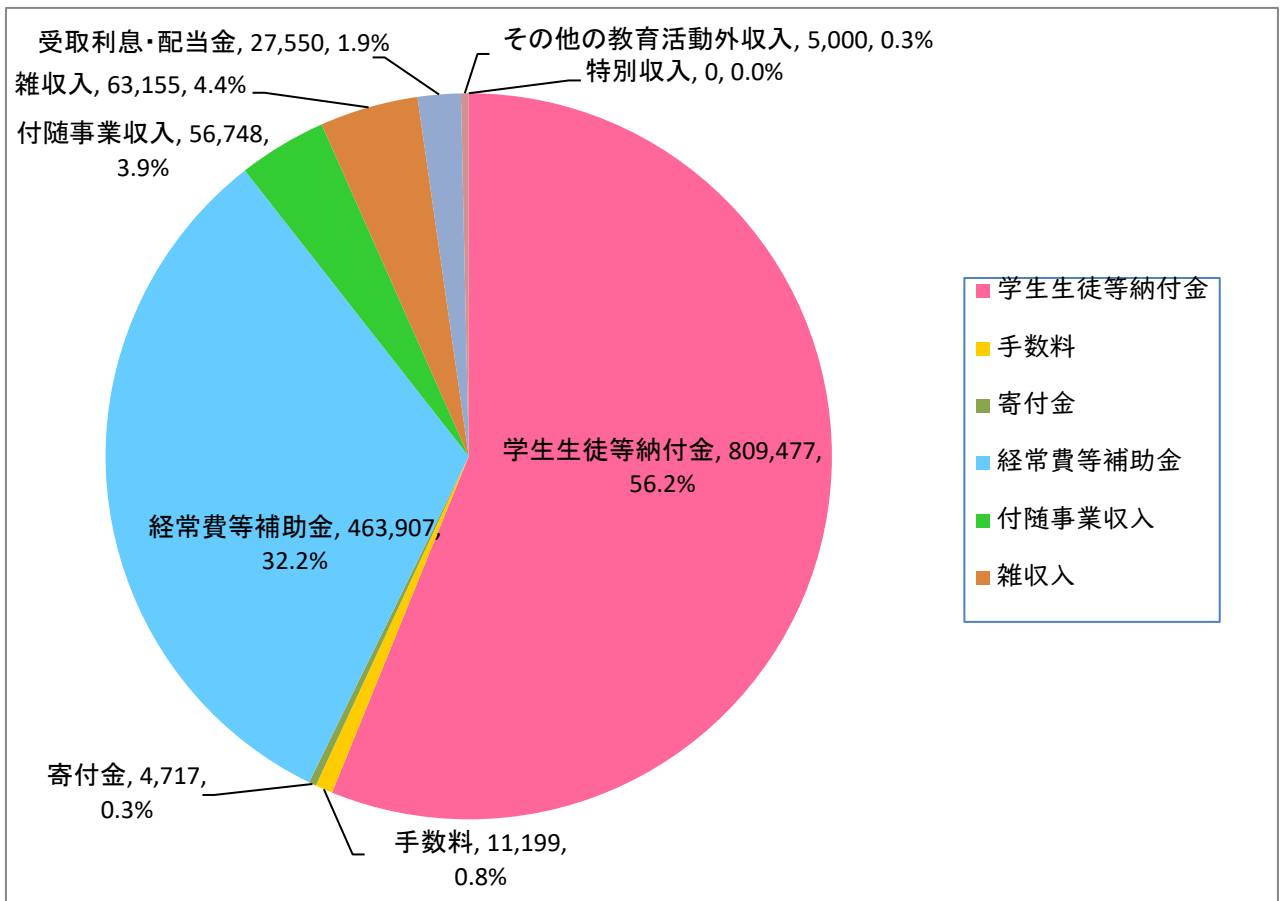
		科 目	予 算	前年度予算	増減	備考	
特別収支	事業活動収入の部	資 産 売 却 差 額	0	0	0		
		地域イノベーション専攻事業費補助金等の減少					
		そ の 他 の 特 別 収 入	0	44,842	△ 44,842		
	特 別 収 入 計	0	44,842	△ 44,842			
事業活動支出の部	資 産 処 分 差 額	0	3,803	△ 3,803			
	企業主導型保育事業整備費補助金の返還						
	そ の 他 の 特 別 支 出	46,892	0	46,892			
	特 別 支 出 計	46,892	3,803	43,089			
特別収支差額			△ 46,892	41,039	△ 87,931	④	
〔 予 備 費 〕			50,000	50,000	0	⑤	
基本金組入前当年度収支差額			△ 175,168	19,380	△ 194,548	⑥ (③+④-⑤)	
基本金組入額合計			△ 61,987	△ 68,599	6,612	⑦	
当年度収支差額			△ 237,155	△ 49,219	△ 187,936	⑧ (⑥+⑦)	
前年度繰越収支差額			△ 2,659,647	△ 3,288,131	628,484		
基本金取崩額			0	677,703	△ 677,703		
翌年度繰越収支差額			△ 2,896,802	△ 2,659,647	△ 237,155		

(参考)

事業活動収入計	1,441,753	1,576,431	△ 134,678	
事業活動支出計	1,616,921	1,557,051	59,870	
経常収入計	1,441,753	1,531,589	△ 89,836	
経常支出計	1,520,029	1,503,248	16,781	

事業活動収入14.4億円の構成比率

(単位:千円)



事業活動支出16.2億円の構成比率

